

掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター

診療科別目標発表会



平成30年6月18日（月）

17:30 開会

17:40 発表開始

- ①総合内科
- ②糖尿病・内分泌内科
- ③腎臓内科
- ④神経内科
- ⑤呼吸器内科
- ⑥消化器内科
- ⑦循環器内科
- ⑧外科
- ⑨人工透析外科
- ⑩整形外科
- ⑪脳神経外科
- ⑫小児科
- ⑬産婦人科
- ⑭泌尿器科
- ⑮皮膚科
- ⑯眼科
- ⑰耳鼻いんこう科
- ⑱腫瘍放射線科
- ⑲麻酔科
- ⑳歯科口腔外科
- ㉑救急科

18:45 宮地企業長兼院長発表

18:50 講評、閉会



平成30年度 診療科目目標発表

総合内科 General Internal Medicine

総合内科



	氏名	役職
1	伊藤 裕司	部長（診療科長） 兼臨床研修センター長
2	牧 隆太郎	部長

主な診療実績

外来患者数	29.5人/日
入院患者数	20.7人/日
糖尿病紹介患者数	48人/6ヶ月

総合内科

平成30年度 目標

1	医療の質	基幹病院の総合診療医としての機能向上
2	診療実績	地域連携強化による紹介患者の確実な受け入れ
3	教育研修	臨床研修センター長として院内教育全般の質向上

総合内科

1 医療の質 基幹病院の総合診療医としての機能向上

	項目	目標
1	糖尿病診療方法の確立	教育入院の質向上
2	耐性菌抑止への努力	ASTと協力をして院内感染症診療の補助
3	専門医不在領域のカバー	根拠に基づいた診療に取り組む

基幹病院の総合診療医としての機能を十分に発揮するとともに、地域開業医との連携により糖尿病の入院診療機能の向上を図ります。

総合内科

糖尿病教育入院始めました

平成30年1月より、多職種スタッフと協力しながら、糖尿病教育入院の受け入れを開始しました。

5

総合内科

2 診療実績

地域連携強化による紹介患者の確実な受け入れ

	項目	目標	昨年度の実績
1	紹介患者の確実な受け入れ	紹介患者数 600件/年	819件/年
2	糖尿病教育入院患者の増加	入院患者数 100人/年	

地域医療機関との信頼を構築し紹介患者を確実に受け入れます。

6

総合内科

3 教育研修

臨床研修センター長として院内教育全般の質向上

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	初期研修医への到達レベルの明確化と質の向上
2	新専門医制度に対応した専攻医教育の充実	症例検討会、勉強会、研修会の定例的な実施 次年度専攻医の確保
3	糖尿病治療水準の向上	地域の糖尿病勉強会に参加 2回/年

臨床研修センター長として初期研修の充実を図り、優秀な内科医の育成に努めます。

7

総合内科

決意

糖尿病診療を含めた 内科診療全般の質向上と 研修医教育に貢献します

8

平成30年度 診療科目目標発表

糖尿病・内分泌内科 Diabetes Medicine and Endocrinology

糖尿病・内分泌内科

	氏名	役職
1	日吉 泰雄	(統括) 診療部長
2	山田 隆之	診療部長

主な診療実績	
外来患者数	約13000人/年
入院 主科入院数	約140人/年
他科入院の血糖管理	約400人/年

特徴：

外来業務量が多い。
入院においては他科入院患者の血糖管理について仕事量が多い。

糖尿病・内分泌内科

平成30年度 目標

- 1 チーム診療の推進
- 2 他科入院血糖管理の充実
- 3 地域連携の強化

糖尿病・内分泌内科

1 チーム診療の推進

コメディカルパワーの向上が重要：ナース、栄養士

要点：

血糖コントロールは患者さんが日常生活の中で行う主体的活動に依る。治療よりも療養。
それゆえ、患者指導が非常に重要。患者指導においてコメディカルが果たす役割は大きい。

方針：

- ①カンファランス、勉強会の回数を増やす
- ②真の戦力となるエキスパートの養成を目指す→集中的トレーニングが必要と考える（方法を模索中）。

2 他科入院患者の血糖管理の充実

要点：

院内各科において糖尿病を合併する患者が非常に多い。
血糖管理不良は

- ①治療予後に影響を及ぼす
- ②入院日数の長期化をもたらす **おそれがある**

方針：

- ①依頼に対し**即に対応**する。
- ②退院後を考慮、**早期から**患者・家族指導を開始する。
- ③診療レベルの**さらなる向上**→各科の信頼を頂き依頼件数を延ばす：目標400～450件超

3 地域連携の強化

要点：

糖尿病患者は数が非常に多く、**病診の役割分担の推進**、が必要治療導入し状態安定した患者は「逆紹介」へ。
逆紹介患者の適切なフォローアップのため**地域連携の強化**は必須。

方針：

- ①逆紹介の推進：年間300件目標
- ②逆紹介患者を通して「診療のノウハウ」を提供：**簡潔で充実した内容の紹介状の作成**

決意

中東遠医療圏全体の
糖尿病診療のレベルアップ
に貢献します

平成30年度 診療科目目標発表

腎臓内科 Nephrology

腎臓内科



	氏名	役職
1	赤堀 利行	院長補佐兼診療部長兼血液浄化センター副センター長
2	武藤 玲子	医長
3	渡邊 絢史	医長

主な診療実績

外来患者数	28.8人/日
入院患者数	15.5人/日
手術件数 (内シャント造設等)	6.3件/月

腎臓内科

平成30年度 目標

1	医療の質	腎臓疾患の早期発見・早期治療とCKD患者への教育入院の推進
2	診療実績	シャント手術、紹介・逆紹介の増加
3	教育研修	大学との連携による教育体制強化 研修医の確保

腎臓内科

1 医療の質 腎臓系疾患の早期発見・早期治療とCKD患者への教育入院の推進

	項目	目標
1	CKD患者に対する腎臓病教育・教育入院の実施	対象患者全員へ積極的推奨を行う
2	地域内におけるチーム医療の強化	地域医療機関との研修会等の実施

地域医療機関との信頼関係を確立し紹介件数を増やすとともに、CKD患者への教育に積極的に取り組み、診療の質向上を図ります。

腎臓内科

2 診療実績 シヤント手術、紹介・逆紹介件数の増加

	項目	目標	昨年度の実績
1	シヤント関連手術件数の増加	100件/年	76件/年
2	紹介患者数増加	400人/年	300人/年
3	逆紹介患者数増加	400人/年	331人/年

シヤント手術の受け入れ体制強化と管理の質向上を目指します。

21

腎臓内科

3 教育研修 大学との連携による教育体制強化
研修医の確保

	項目	目標
1	大学と連携し教育レベルの向上を図る	大学院生の継続受入と診療レベルの向上
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育の充実を図り研修医確保につなげる

腎臓疾患への診療技術全般に対する十分な指導を行い、若手医師のレベル向上と研修医の確保を図ります。

22

腎臓内科

地域連携強化で信頼される腎臓内科に



慢性腎臓病（CKD）の治療及び患者さまへの教育を推進するとともに、シヤント手術を伴う透析の新規導入患者さまについて、紹介・逆紹介の推進により地域の開業医との情報共有・連携を行ってまいります。地域の基幹病院として、患者さまからだけでなく、開業医からも信頼される腎臓内科を目指します。

23

腎臓内科

決意

診療レベルの向上と
地域連携の強化により
信頼される腎臓内科として
地域医療に貢献します

24

平成30年度 診療科目目標発表

神経内科 Neurology

神経内科



	氏名	役職
1	若井 正一	副院長兼診療部長
2	岩田 麻衣	医長

主な診療実績	
外来患者数	49.3人/日
入院患者数	17.8人/日
睡眠入院検査実施件数	34.3件/月

神経内科



1	医療の質	神経疾患の確実な受入と認知症への対応強化
2	診療実績	入院患者の増加と睡眠医療の強化
3	教育研修	教育体制の充実と研修医の確保

神経内科

1 医療の質 神経疾患の確実な受入と認知症への対応強化

	項目	目標
1	認知症疾患医療センターの体制強化	認知症疾患医療センター患者数 950人/年 (H29実績 932人)
2	認知症ケア加算 1 の取得	スタッフ配置による診療の充実と加算の算定開始

認知症疾患医療センターとして、認知症認定看護師との連携を強化し、中東遠地域の認知症医療の質向上に貢献します。

神経内科

2 診療実績 入院患者の増加と睡眠医療の強化

	項目	目標	昨年度の実績
1	神経疾患（脳血管疾患以外）の入院を増加	250件／年	235件／年
2	睡眠入院検査の増加	430件／年	412件／年

中東遠医療圏の神経疾患の基幹病院としての役割を果たすとともに、県内唯一の総合病院内の睡眠医療センターとして、高度な検査、診断による最良の治療を行います。

29

神経内科

3 教育研修 教育体制の強化と研修医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化を図り研修医の確保につなげる
2	内科専攻医への教育を充実	教育プログラムの確実な実施により優秀な内科医を育成する

内科研修プログラムの充実に寄与し、研修医の確保に努めます。

30

神経内科

認知症疾患医療センターとして



先の診療報酬改定においても、認知症患者に対する診療の充実が推進されており、急性期病院においても認知症患者への対応強化は急務であると言えます。

地域における基幹病院の認知症疾患医療センターとして、精神保健福祉士や平成30年度誕生予定の認知症認定看護師らと協力し、認知症を患う患者さまへのケア・サポート体制を充実してまいります。

31

神経内科

決意

認知症を含めたあらゆる神経疾患への対応を強化し地域医療に貢献します

32

平成30年度 診療科目目標発表

呼吸器内科 Respiratory Medicine

呼吸器内科



	氏名	役職
1	牧野 靖	診療部長
2	笠原 高翔	医長
3	速井 俊策	医長
4	三上 智	医員

主な診療実績	
外来患者数	49.3人/日
入院患者数	50.7人/日
肺がん入院症例数	26.3人/月

呼吸器内科



1	医療の質	手術対象症例を含む呼吸器系疾患全般に対する診療の充実
2	診療実績	地域医療連携のさらなる推進
3	教育研修	大学との連携による教育体制強化と専攻医の獲得

呼吸器内科

1 医療の質

手術対象症例を含む呼吸器系疾患全般に対する診療の充実

	項目	目標
1	手術対象患者への診療強化	当院での肺がん手術の実施に伴い、手術対象患者への診療を強化
2	大学と連携した医療の質向上への取り組み	大学院生、専攻医への指導強化 カンファレンスの充実と医療安全推進

肺がんをはじめとする呼吸器疾患に対する診療水準の向上のため、手術対象症例へも積極的な関与を行います。

2 診療実績

地域医療連携のさらなる推進

	項目	目標	昨年度の実績
1	紹介件数の増加	1,000件/年	1,098件/年
2	逆紹介件数の増加	800件/年	822件/年
3	入院患者数の維持	48人/日	51人/日
4	気管支鏡など検査件数の確保	200件/年	200件/年

地域医療連携を推進し、がん症例の受け入れ体制を強化します。

3 教育研修

大学との連携による教育体制強化と専攻医の獲得

	項目	目標
1	専攻医の獲得	1名以上の獲得
2	教育体制の強化 研修医の確保	呼吸器系疾患に対する教育レベルの向上と研修医の確保

呼吸器系疾患に対する幅広い指導を行い、地域医療に貢献できる医師の育成に努めます。

肺がん手術、緩和ケア外来、禁煙外来開始

緩和ケアではチームであなたを支えます



当科では、肺がん患者さまに対する化学療法、放射線療法等の診療を積極的に行ってまいりましたが、平成30年4月からは大学、他科医師や多職種スタッフとの協力体制のもと「肺がん手術」「緩和ケア外来」を開始しました。また予防医療の充実を目指し、「禁煙外来」も開始しました。

がん患者さまが、この地域で安心して治療を受けられるよう、呼吸器内科医師一同尽力してまいります。

決意

肺がんを中心としたあらゆる呼吸器系疾患に対する診療の質向上により地域医療に貢献します。また、我々自身、さらに関わってくださるコ・メディカルの皆様もあらゆる意味で可能な限りHappyに仕事ができるよう努力します。

平成30年度 診療科目目標発表

消化器内科 Gastroenterology

41

消化器内科



	氏名	役職
1	高柳 正弘	(統括) 診療部長
2	小野 幸矢	診療部長兼内視鏡センター副センター長
3	大島 啓嗣	部長
4	坂井 圭介	部長

主な診療実績

外来患者数	74.5人/日
入院患者数	46.8人/日
内視鏡手術件数	46.4件/月

42

消化器内科

平成30年度 目標

1	医療の質	連携強化による消化器系疾患への対応強化
2	診療実績	早期発見・早期対応の強化
3	教育研修	専攻医の獲得と診療体制の維持

43

消化器内科

1 **医療の質** 連携強化による消化器系疾患への対応強化

	項目	目標
1	消化器病センターの体制強化	紹介患者の確実な受け入れ
2	ドック・検診の再検患者への対応強化	再検実施率 70%
3	C型慢性肝炎の標準治療の変更に伴う、治療可能な患者への提案強化	20名/年

各診療科、各部署との連携を強化し、消化器系疾患への診療を教科するとともに、紹介患者への迅速な対応を行ってまいります。

44

2 診療実績

早期発見・早期対応の強化

	項目	目標	昨年度の実績
1	上部・下部内視鏡検査の体制強化	検査件数 7,500件/年	7,032件/年
2	紹介・逆紹介件数の維持	紹介 1,600件/年 逆紹介 1,100件/年	紹介 1,652件/年 逆紹介 1,176件/年
3	ピロリ菌除菌推進と経過観察	ピロリ菌検査件数 450件/年	405件/年

内視鏡検査の件数増加を図るとともに、がん患者の早期発見・早期治療に貢献します。

3 教育研修

専攻医の獲得と診療体制の維持

	項目	目標
1	常勤医師の増員	常勤医師4人体制の維持
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

研修医に対して内視鏡手技等の習熟を目指した教育を行ってまいります。

消化器病センターによる体制強化



当院は消化器病センターを設置し、消化器内科、消化器外科、総合内科と強力な連携体制をとっています。

当科は消化器病センターより紹介のあった患者さまに対して各種内視鏡検査を迅速かつ丁寧に行うとともに、ドック・検診業務を推進することでがん患者の早期発見・早期治療にも貢献してまいります。

決意

消化器疾患への迅速かつ適切な診療とがんの早期発見・早期治療に貢献します

平成30年度 診療科目目標発表

循環器内科 Cardiology

循環器内科



主な診療実績	
外来患者数	74.5人/日
入院患者数	54.1人/日
PCI等手術件数	50.3件/月

	氏名	役職
1	森川 修司	診療部長兼心血管内 治療センター長
2	紅林 伸丈	部長兼心血管内治療 センター副センター 長
3	城向 裕美子	部長
4	磯部 龍夫	医長
5	國枝 武茂	医長
6	大鐘 崇志	医長
7	鶴見 尚樹	医長
8	鈴木 智隆	医長
9	太田 竜右	医長
10	井上 直也	医員

循環器内科

平成30年度 目標

1	医療の質	24時間365日、循環器系疾患を絶対に断らない診療体制の維持と地域連携の強化
2	診療実績	カテーテルを用いた検査・手術件数の維持
3	教育研修	充実した指導体制による研修医・後期研修医指導を強化し良医を育成する。 他のスタッフも各々モチベーション・志を高く持てるよう、経験を積んでもらう

循環器内科

1 医療の質

24時間365日、循環器系疾患を断らない診療体制の維持と地域連携の強化

	項目	目標
1	24時間365日体制の確保	診療スタッフのモチベーション・スキルアップと断らない診療体制の確保
2	地域医療連携に関する勉強会の開催	3回/年
3	地域連携の更なる強化	速やかな紹介患者さんへの診療紹介件数の増加

- 近隣の開業医様との連携を強化するために、開院後、磐周・小笠地区77の開業医様に、157回にわたり訪問しました。
- 開業医様や近隣病院様との連携をさらに強化することにより、あらゆる心血管疾患患者さまを絶対に断らずに全て速やかに受け入れ、診療する体制をとっています。
- 看護師や放射線技師、臨床工学士等コメディカルとの良好なチームワークのもとに、全人的で満足度の高い医療を提供します。
- 医師・スタッフの人数の問題でなく、各々のモチベーションを高くもつことにより成り立っています。現に、以前は医師4人体制でもほぼ同様の診療をしていました。

2 診療実績

カテーテルを用いた検査・手術件数の維持

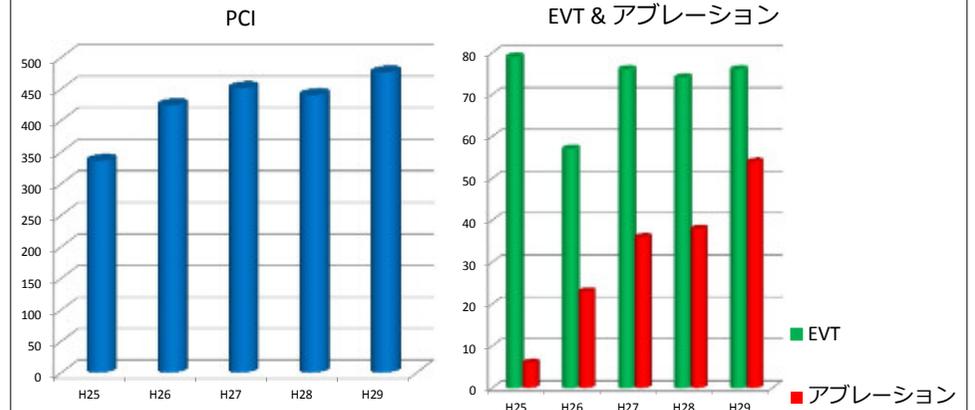
項目	目標	昨年度当院の実績	磐田市立総合病院 (ホームページ参照)	聖隷浜松病院 (ホームページ参照)
カテーテル治療専門医の人数		1人 (今年度より2人の予定)	0人	1人
カテーテル実施件数の維持	PCI (心臓) 450件/年	476件/年	154件/年	470件/年
	EVT (下肢) 70件/年	74件/年	0件/年	38件/年
	アブレーション (不整脈) 60件/年	55件/年	2件/年	152件/年
	CAS (頸動脈) 10件/年	9件/年	0件/年	0件/年

循環器系疾患における地域の中核施設として、ハイパフォーマンスかつ安定した診療体制の維持に努めます。



2 診療実績

アブレーションの急激な増加



3 教育研修

充実した指導體制による研修医・後期研修医指導を強化し良医を育成する

項目	目標
1 教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育水準の向上、到達目標の明確化 多くの症例数を経験することにより、研修医のみでなく循環器医スタッフの知識・技術の向上
2 英語の勉強会の実施	4回/月
3 学会活動への参加	研修医/後期研修医の発表を促進 (その他の当科医師全員、最低年2回程度の学会発表をしてもらっています)

研修医・後期研修医が、循環器疾患全般の診断・治療のプロセスを理解し、診断能力・手技を習得できるようにするとともに、学会活動への参加を促しサポートします。



虚血性心疾患や下肢閉塞性動脈硬化症の症例数は
県内屈指
不整脈のアブレーションも急速に増加中



当診療科は、中東遠医療圏の心血管疾患治療における中核施設として、各々モチベーションを高く持った充実したスタッフ体制のもと、年間約2,000人の患者さまを入院で受け入れております。また、急性心筋梗塞等の急性の救急患者さまに対しても24時間365日、診断・治療を迅速に行うことができます。

今年度は、心臓外科の招聘に対して積極的に働きかけ、さらなる診療の質向上を目指すとともに、研修医を含めた循環器内科医師全員のスキルアップに努めてまいります。



決意

多職種とのチーム医療のもと、24時間365日絶対に断らず、質の高い診療体制を継続し地域医療に貢献します



平成30年度 診療科目目標発表

外科 Surgery

外科



	氏名	役職
1	宮地 正彦	企業長兼院長
2	久世 真悟	院長補佐兼（統括）診療部長
3	京兼 隆典	医務局長兼診療部長兼消化器病センター長
4	河合 徹	診療部長兼手術センター副センター長
5	雄谷 慎吾	部長
6	川合 亮佑	部長
7	浅井 悠一	医長
8	渡邊 夕樹	医長

主な診療実績	
外来患者数	71.4人/日
入院患者数	33.5人/日
手術件数	62.2件/月

外科



1	医療の質	外科領域手術の拡大と最先端医療への対応
2	診療実績	全身麻酔手術件数の増加と手術領域の拡大
3	教育研修	専攻医の確保

外科

1 医療の質 外科領域手術の拡大と最先端医療への対応

	項目	目標
1	外科領域手術の拡大	大学との連携による呼吸器外科、小児外科手術の開始
2	乳腺外科領域に対する診療強化	最先端マメ（トシセス）を活用した乳がん検診の拡大と早期診断、早期治療の実施
3	腹腔鏡下手術、難治・進行消化器がん手術など消化器手術の強化	消化器病センターとの連携による症例確保
4	手術支援ロボット（ダヴィンチ）活用	胃がん・直腸がん手術の利用開始

新たな試みとして、胃がん、直腸がん手術におけるダヴィンチの導入、小児外科手術の開始があります。また、乳がん、肺がん領域への手術対応を強化し、よりレベルの高い医療(手術)を提供します。

2 診療実績 全身麻酔手術件数の増加と手術領域の拡大

項目	目標	昨年度の実績
1 全身麻酔手術件数の増加	600件/年	523件/年
2 新たな分野における手術件数の増加	ガウイン手術 5件/年 乳腺外科手術 70件/年 呼吸器外科手術 25件/年 小児外科手術 15件/年	ガウイン手術 - 乳腺外科手術 57件/年 呼吸器外科手術 5件/年 小児外科手術 -

全身麻酔下の手術症例を余さず受け入れ、地域医療の質向上、地域完結型の医療提供体制構築に貢献します。

3 教育研修 専攻医の確保

項目	目標
1 教育体制を強化し専攻医を確保	外科領域に関する教育指導を徹底し、外科医志望の専攻医を確保する

消化器疾患に対する開腹・腹腔鏡手術、乳腺疾患の治療、下肢静脈瘤に対するレーザー治療、腹部救急疾患の対応など、幅広い分野での指導を行い、外科医志望の専攻医確保につなげます。

胃がん・直腸がん手術への手術支援ロボットda Vinciの導入



当院外科は、開院以来、胃がん、結腸がん、直腸がん手術に対し、積極的に腹腔鏡下手術を行ってきました。
今年度は、胃がん・直腸がん手術へのダヴィンチの新規導入を行い、さらなるレベルアップを目指します。

最先端マンモグラフィー:トモシンセシスの導入

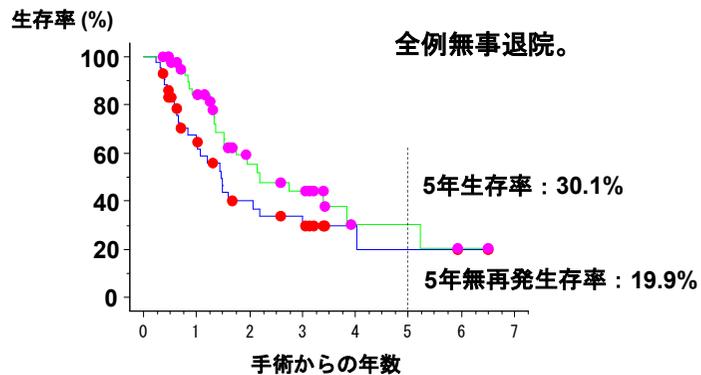


当院では、中東遠圏域の病院で初めてトモシンセシス（3Dマンモグラフィー）を導入し、既に臨床の現場で活用されています。また、7月2日より当院で乳がん検診が単独で受診できるようになり、トモシンセシスによる精度の高い検診を受けることが可能となります。
乳がんの予後予測や化学療法の効果予測に有用とされる、Oncotype DX乳がん検査（乳がん遺伝子検査）を患者さまに紹介させていただいており、乳がんの個別化医療の実現に向けて努力しています。

難治・進行消化器がんに対する長期成績改善への努力

膵頭部がん手術症例

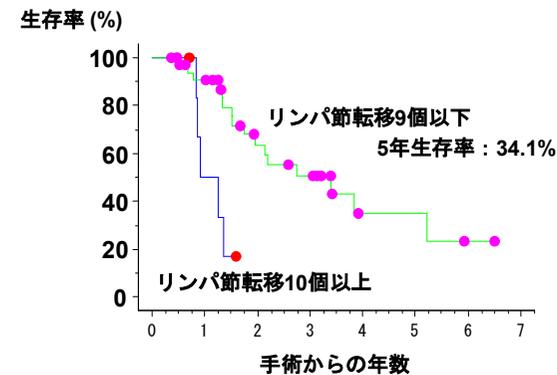
2011.1~2017.12



難治・進行消化器がんに対する長期成績改善への努力

膵頭部がん手術症例

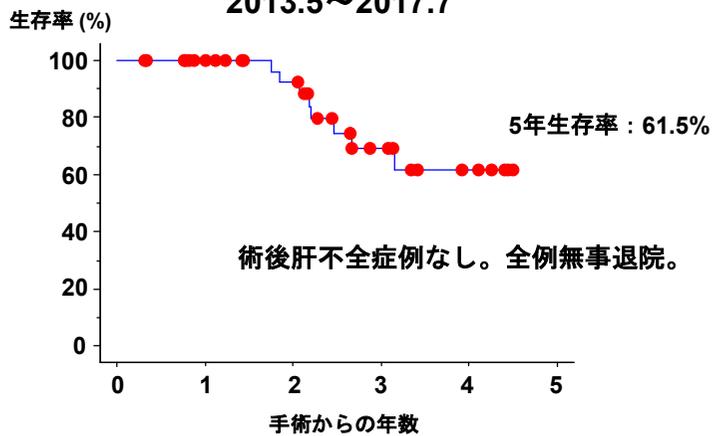
2011.1~2017.12



難治・進行消化器がんに対する長期成績改善への努力

大腸がん肝転移手術症例

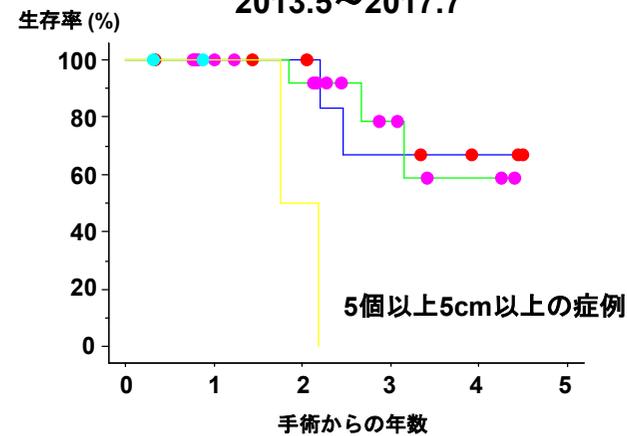
2013.5~2017.7

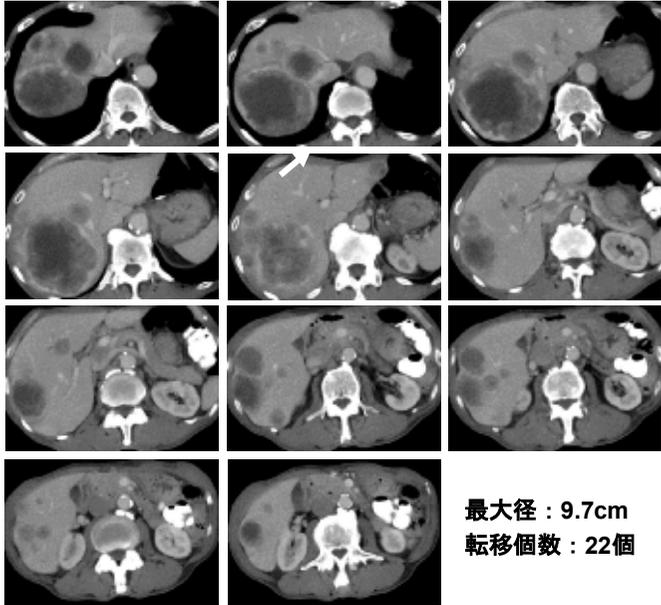


難治・進行消化器がんに対する長期成績改善への努力

大腸がん肝転移手術症例

2013.5~2017.7





最大径 : 9.7cm
転移個数 : 22個

決意

消化器がん、乳がん診療の質向上を図り、
地域内完結型医療提供体制の構築に貢献
します。

平成30年度 診療科目目標発表

人工透析外科 Dialysis Surgery

人工透析外科

	氏名	役職
1	沼野 正浩	診療部長兼血液浄化センター長

主な診療実績	
血液浄化センター延べ外来患者数	1,385人/月
特殊血液浄化（含む CART）	18症例58件/年
手術件数（アクセス関連手術）	30件/年

人工透析外科

平成30年度 目標

1	医療の質	連携強化による透析及び一般患者医療の質向上
2	診療実績	維持及び臨時透析患者の受入増加と質の向上
3	教育研修	透析診療チーム医療スキルのレベルアップ

人工透析外科

1	医療の質	連携強化による透析及び一般患者医療の質向上
---	-------------	-----------------------

	項目	目標
1	開業医との連携強化	研究会・研修会への参加による地域全体の透析の質の向上
2	院内連携の強化	他科入院透析の確実な実施（H29実績 165件/月） 特殊血液浄化に対する協力

腎臓内科と協働しながら、患者希望に添った腎不全治療を提供します。開業医・院内連携により診療側のニーズに沿った治療に協力していきます。（血液・腹腔アクセスの作成・特殊血液浄化）

2 診療実績 維持及び臨時透析患者の受入増加と質の向上

	項目	目標	昨年度の実績
1	透析患者数の増加	96人	88人
2	シャント手術件数の増加	48人	30人
3	オンライン HDF の件数増加	7,500件前後/年	1,535件/年
4	フットケアの充実	チェックフローに加え下肢循環動態診察を併せて実施	全例チェックフローに基づき実施
5	シャント評価の充実と閉塞予防	シャント観察・評価フローの作成（静脈エコーを組込み）	全例に対しシャント観察・評価実施（対応不十分）

血液浄化センタースタッフと協力し、透析合併症予防・早期発見に努め透析患者のQOLの維持を目指します。

3 教育研修 透析診療チーム医療スキルのレベルアップ

	項目	目標
1	ミーティングの定期開催とスタッフの意識改革	①経時的患者評価習得 ②全患者情報の共有化
2	学術研究会での発表	既に取り組んでいる ①シャント評価 ②下肢末梢循環評価（フットケア） ③透析患者地域防災 以上の活動内容報告等 学術発表 1回/年

チーム医療のレベルアップを目指し、血液浄化センターとして透析に関する諸問題に取り組み、学術発表を行ってまいります。

血液浄化センターは透析患者管理のみならず、特殊血液浄化による治療の選択肢を提供しています



人工透析外科として血管移植手術を行うのはもちろんのこと、血液浄化センターとして、透析患者の合併症の予防・早期発見・早期治療に努め、これらによるADL低下防止・QOLの確保を目指しています。
また、地域の方には特殊血液浄化療法を提供することで、各専門科の診療に貢献しています。

決意

中東遠地域における
透析診療及び疾患治療の質
の向上に貢献します

特殊血液浄化療法

血漿交換療法
二重濾過法
血漿吸着法
血液吸着法
血球成分除去療法
持続緩徐式血液濾過

腹水濾過濃縮再静注法

対象疾患

劇症肝炎
急速進行性腎炎
重症急性膵炎
多発性硬化症
ギラン・バレー症候群
巣状系球体硬化症
関節リウマチ
潰瘍性大腸炎
川崎病
術後肝不全
肝性昏睡
腎不全
重度血液型不適合妊娠
家族性高コレステロール血症
薬物中毒
多発性骨髄腫
マクログロブリン血症

難治性腹水（肝硬変・癌）

平成30年度 診療科目目標発表

整形外科 Orthopedic Surgery

整形外科



	氏名	役職
1	浦崎 哲哉	院長補佐兼(統括)診療部長兼脊椎・脊髄センター長
2	丸山 正吾	副医務局長兼診療部長兼手術センター副センター長
3	小松 知也	診療部長
4	富田 浩之	部長
5	水野 隆文	医長
6	小杉山 裕亘	医長
7	佐藤 俊	医長
8	山路 哲史	医長
9	板東 皓介	医員
10	猿渡 幹	医員

主な診療実績	
外来患者数	120.9人/日
入院患者数	52.8人/日
手術件数	91.2件/月

整形外科

平成30年度 目標

1	医療の質	入院、手術を中心とした診療機能の強化
2	診療実績	脊椎手術・変形性関節症手術の増加
3	教育研修	研修医の確保

整形外科

1	医療の質	入院、手術を中心とした急性期診療機能の強化
	項目	目標
1	地域医療機関との症例検討会の実施	5回/年
2	紹介件数の増加	2,000件/年
3	逆紹介件数の増加	2,000件/年

地域の医療機関との連携を強化し、急性期の患者さまに良質な医療を提供するとともに、地域医療機関等への円滑な引き継ぎにより患者さまのQOL向上に貢献します。

整形外科

2 診療実績 脊椎手術・変形性関節症手術の受け入れ強化

	項目	目標	昨年度の実績
1	脊椎手術件数の増加	200件／年	195件／年
2	変形性関節症手術件数の増加	100件／年	74件／年
3	新規入院患者数の増加	1,850件／年	1,820件／年

地域の皆様に必要とされる診療体制のさらなる強化を図ります。

93

脊椎・脊髄センター

2 診療実績

	項目	2017年の実績
1	脊椎手術件数の増加	208件／年

背骨の外傷と疾患において、顕微鏡手術を主体とし、静岡で1番質の高い医療を目指します。

94

整形外科

3 教育研修 専攻医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

外傷の初期対応等、研修医に必要なスキルの習得に貢献します。

95

整形外科

脊椎手術と人工関節手術



当院整形外科は年間1,000件以上の手術を施行しており、様々な外傷や変性疾患に対応しています。高齢化社会において、これらの疾患はますます増えていくものと考えられます。

平成30年度は脊椎手術200件、人工関節手術100件を目標として掲げました。受け入れ体制をいっそう強化し、地域住民のQOL向上に貢献してまいります。

96

決意

超高齢社会を乗り切る
診療体制の強化と
地域医療体制の充実に
貢献します

平成30年度 診療科目目標発表

脳神経外科 Neurosurgery

脳神経外科



	氏名	役職
1	市橋 鋭一	副院長兼（統括） 診療部長兼脳血管 内治療センター長
2	梅津 正成	診療部長
3	鳥飼 武司	部長
4	出村 光一朗	部長
5	林 裕樹	医員

主な診療実績	
外来患者数	41.9人/日
入院患者数	36.9人/日
手術室内手術件数	16.4件/月
血管内手術件数	6.8件/月

脳神経外科



1	医療の質	あらゆる脳神経外科疾患に対する診療強化
2	診療実績	血管内手術を含む脳外科手術の増加
3	教育研修	研修医・専攻医への教育強化

脳神経外科

1 医療の質 あらゆる脳神経外科疾患に対する診療強化

	項目	目標
1	すべての脳卒中患者の受け入れと救急科との連携	断らない体制
2	急性期脳卒中中のネットワーク確立	遠隔画像診断の導入
3	脳卒中ケアユニットの設置に向けた検討	密度の高い入院医療の実施

地域の基幹病院として、24時間365日、脳神経外科疾患の患者を受け入れます。

2 診療実績

血管内手術を含む脳外科手術の増加

項目	目標	昨年度の実績
1 全身麻酔手術の増加	全麻手術 120件/年	98件/年
2 脳血管内手術の増加	血管内手術 100件/年	82件/年
3 病診連携の推進	紹介件数 1,000件/年 逆紹介件数 2,000件/年	紹介件数 901件/年 逆紹介件数 1,663件/年
4 脳ドック件数の増加	350件/年	313件/年

脳神経外科領域の基幹病院として、脳卒中予防から難度の高い手術まで、すべてに確実に対応します。

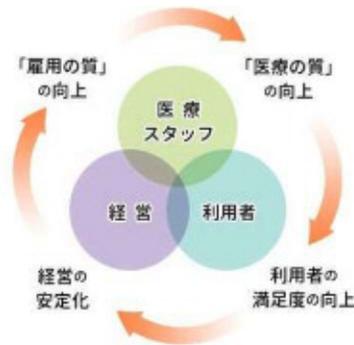
3 教育研修

研修医・専攻医への教育強化

項目	目標
1 他科との連携による勉強会の開催	ICU、CCUとの共同勉強会の開催
2 病棟カンファ、リハビリカンファ開催	1回/週
3 専攻医教育の強化	技術良医の育成
4 研修医教育の充実と専攻医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

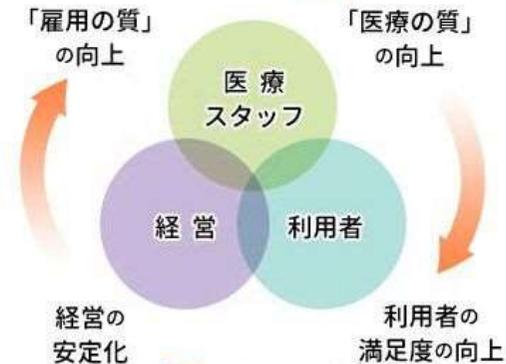
脳卒中外科指導医による充実の教育体制により、初期研修医・後期研修医のスキルアップに貢献します。

マグネット・ホスピタルを目指そう
～辞めない職場から集まる職場へ～



「マグネットホスピタル」
「患者・医師・看護師を磁石のように引きつけて放さない、魅力ある病院」

専門医 指導医 取得
新技術、新機材への取り組み
研修医 専攻医指導と
サフトイトルの取得指導



Op件数増加
2群病院格上げ
救急入院に頼らない
入院患者数

専門医 指導医からの技術提供
各種施設認定
当院でのエビデンス確立
救急体制の確立

日本脳神経外科学会専門医・指導医
 日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医(@ 施設認定)
 日本脳卒中学会専門医(@ 施設認定)
 日本脳卒中の外科学会技術指導医
 日本神経内視鏡学会技術認定医
 日本脳ドック学会認定脳ドック施設

現在、上記のサブタイトルは当院で取得可能

日本リハビリテーション医学会臨床専門医
 日本脊髄外科学会認定医

一人の医師タイトルでは上記の維持は困難
 各医師のモチベーションと意識改革、意欲が必須

109

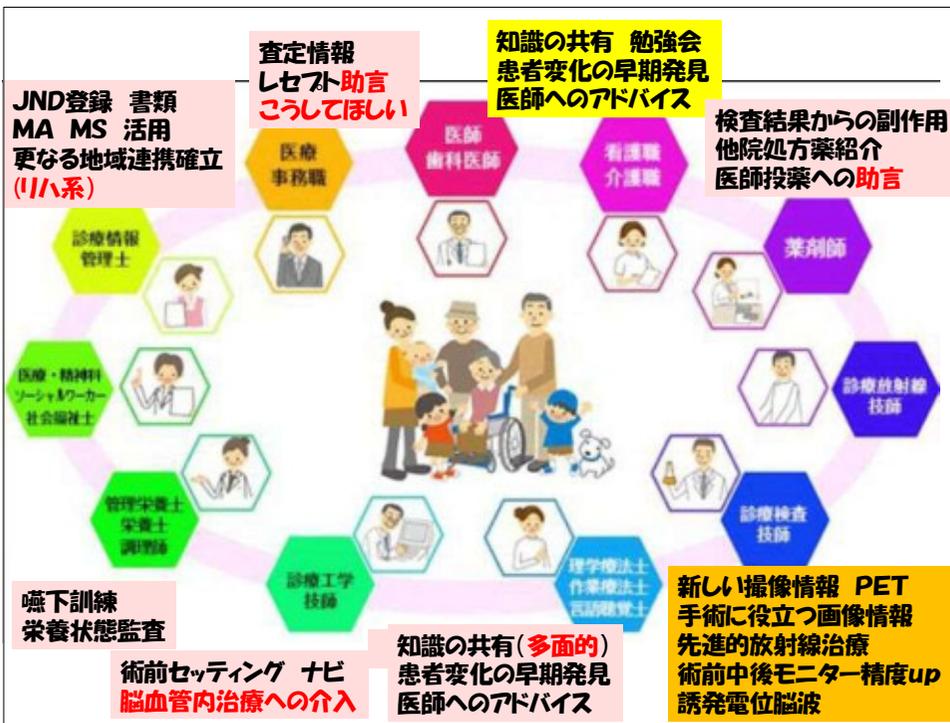
チーム医療



それぞれの部署が 関連部署に
 こうしてほしい こうしたらどうか 意見 助言する できる 医療

そのためには、各部署、個人のレベルUPが必須

110



28

脳神経外科

脳血管疾患に対するスペシャリストチーム



当院脳神経外科は、5人体制によるチーム医療のもと、24時間365日脳卒中などの診療に対応しています。また、難易度の高い手術症例についても、後期研修医への指導を行いながら、高い技術により安全かつ質の高い治療を行っています。個人の技術とチームの連携を同時に強化し、地域医療へのさらなる貢献を目指します。

112

決意

個人そしてチームとして
診療技術をさらに高め
脳卒中治療をはじめとする
地域医療に貢献します



平成30年度 診療科目目標発表

小児科 Pediatrics

小児科



	氏名	役職
1	久保田 晃	(統括) 診療部長
2	久保田 登志子	診療部長
3	矢田 宗一郎	診療部長
4	岩島 覚	診療部長
5	西尾 友宏	部長
6	塩澤 亮輔	部長
7	早野 聡	部長
8	田中 智大	医員
9	櫻井 史紀	医員

主な診療実績

外来患者数	87.4人/日
入院患者数	15.0人/日
アレルギー食物負荷試験実施件数	14.5件/月

小児科



1	医療の質	あらゆる小児疾患に対する診療体制の充実
2	診療実績	紹介患者数及び入院患者数の増加
3	教育研修	研修教育の強化と研修医の確保

小児科

1 医療の質 あらゆる小児疾患に対する診療体制の充実

	項目	目標
1	小児入院医療体制の強化	体制強化による 小児入院医療管理料3の取得
2	行政や施設との連携強化	集団健診等による地域貢献 就学支援委員会への協力
3	夜間休日の診療体制確保	夜間休日の日当直医の配置
4	発達外来の創設	週2回の外来枠の設置

あらゆる小児疾患より高度な小児急性期疾患
に対応できる体制を強化します。

2 診療実績

紹介患者数及び入院患者数の増加

項目	目標	昨年度の実績
1 紹介患者数の増加	150件/月	143件/月
2 専門診療の充実	アレルギー食物負荷試験 180件/年 内分泌負荷試験 20件/年 心臓カテーテル 20件/年	アレルギー 174件/年 内分泌 20件/年 心カテ 11件/年
3 一般病床入院患者数	1,000人/年	747人/年

ニーズの高いアレルギー食物負荷試験を含む各種検査・専門診療の強化を図ります。

3 教育研修

研修医の教育強化と研修医の確保

項目	目標
1 初期研修医の教育強化	月10例程度の受け持ち
2 後期研修医の教育強化	学会での症例報告、論文作成
3 教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

小児科医師一丸となって、研修医教育を熱意を持って行ってまいります。

集団健診から心カテまで幅広く



当院は中東遠医療圏内屈指の医師数を誇り、集団健診からアレルギー外来、新生児診療、心臓カテーテル検査、救急医療までと、幅広く診療を行っております。さらに、今年度からは月1回小児外科医師を招聘し、外科系疾患への手術療法も対応可能となっています。

中東遠地域のすべてのお子さんを充実した体制で守ります。

決意

充実した小児診療体制を構築し、地域の子ども達を守ります

平成30年度 診療科目目標発表

産婦人科 Obstetrics and Gynecology

産婦人科



主な診療実績	
外来患者数	85.0人/日
入院患者数	15.0人/日
手術件数	33.5件/月
分娩件数	45.6件/月

氏名	役職	資格
村上 裕介	統括診療部長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会 周産期（母体・胎児）暫定指導医 母体保護法指定医 臨床研修指導医 医学博士
田中 晶	診療部長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本婦人科腫瘍学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 医学博士
高橋 慎治	診療部長	日本産科婦人科学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 臨床研修指導医
小池 洋	医長	
林立弘	医員	

産婦人科

平成30年度 目標

1	医療の質	より専門性の高い医療
2	診療実績	手術件数の増加
3	教育研修	研修医の確保

産婦人科

1 医療の質 より専門性の高い医療

	項目	目標	昨年度の実績
1	産科医療の充実	母体緊急搬送の100%受け入れ 超緊急帝王切開時の体制の強化	51件/年
2	がん診療の充実	高度な技術を要する悪性腫瘍手術 から終末期医療まで取り組む	
3	腹腔鏡手術の確立	適応疾患の拡大（子宮摘出）	卵巣摘出のみ

市民、近隣開業医の先生から信頼される産婦人科を目指す

2 診療実績

手術件数の増加

	項目	目標	昨年度の実績
1	手術件数の増加	420件/年	402件/年
2	がん手術件数の増加	80件/年	77件/年
3	腹腔鏡手術の確立	50件/年	15件/年

腹腔鏡手術の対象疾患は卵巣・卵管に限定していたが、
8月から腹腔鏡下子宮摘出術も行なう

3 教育研修

研修医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	日本婦人科腫瘍学会指定修練施設の認定

日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設に加え

- ①日本周産期・新生児医学会指定修練施設 昨年8月に指定
- ②日本婦人科腫瘍学会指定修練施設 申請中

各種学会の認定研修施設となり、研修医に選ばれる病院となる

将来的な展望

NICU併設により周産期医療を充実させる
中東遠地区の婦人科がん診療の中心的施設となる
腹腔鏡による悪性腫瘍手術を実施する

決意

産科医療からがん治療まで妥協のない
診療を行ない、市民から信頼される
産婦人科を目指します。

平成30年度 診療科目目標発表

泌尿器科 Urology

泌尿器科



	氏名	役職
1	古瀬 洋	診療部長
2	松本 力哉	部長
3	渡邊 俊輔	医員

主な診療実績	
外来患者数	48.1人/日
入院患者数	19.7人/日
手術件数	450件/年
ダヴィンチ手術件数	28件/年

泌尿器科



1	医療の質	手術の安全性向上と地域連携強化による診療体制の充実
2	診療実績	ダヴィンチ手術を含む手術件数の増加
3	教育研修	研修医の確保と腹腔鏡手術技術の向上

泌尿器科

1 医療の質

手術の安全性向上と地域連携強化による診療体制の充実

	項目	目標	昨年度の実績
1	ダヴィンチ手術の安全性向上	事故0件	0件
2	地域連携の強化	紹介件数 920件/年 逆紹介件数 550件/年	紹介件数 911件/年 逆紹介件数 534件/年

地域連携を強化し、ダヴィンチを含む泌尿器科領域の診療体制を充実します。

泌尿器科

2 診療実績 ダヴィンチ手術を含む手術件数の増加

	項目	目標	昨年度の実績
1	ダヴィンチ手術件数の増加	36件/年	28件/年
2	手術件数の維持 ※手術の高度化を図り件数は維持する	450件/年	450件/年

高度な治療・手術を必要とする患者さまの受け入れを強化します。

137

泌尿器科

3 教育研修 研修医の確保と腹腔鏡手術技術の向上

	項目	目標
1	腹腔鏡担当医の技術習得	研修参加 2回/年
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

腹腔鏡技術認定医の取得を目指すとともに、研修医への教育・指導を行ってまいります。

138

泌尿器科

ダヴィンチ手術のさらなる拡大



平成29年2月の導入から1年が経過し、平成29年度は28件のダヴィンチ手術を実施しました。
 当院泌尿器科医師のレベルも着実に向上し、今後はより多くの患者さまに対して実施可能となります。
 平成30年度は36件の手術実施を目指すとともに、安全性のさらなる向上を目指します。

139

泌尿器科

決意

ダヴィンチのさらなる活用と泌尿器科領域の診療技術を向上させ地域医療に貢献します

140

平成30年度 診療科目目標発表

皮膚科 Dermatology

皮膚科



	氏名	役職
1	池谷 茂樹	部長 (診療科長)
2	田嶋 瑞帆	医員
3	富田 和貴	医員

主な診療実績	
外来患者数	64.5人/日
入院患者数	7.4人/日
生検・手術件数	60.4件/月

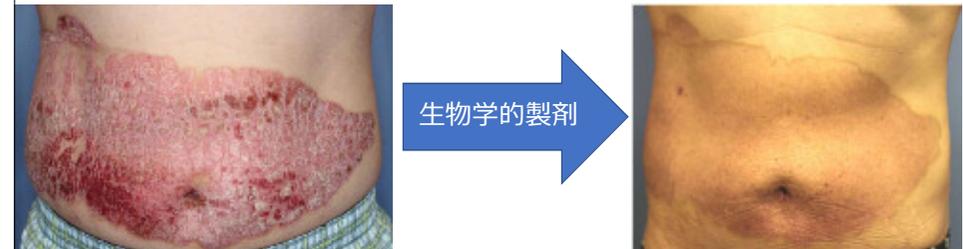
皮膚科

平成30年度 → 目標

1	医療の質	皮膚科診療の充実
2	診療実績	地域連携の推進と手術件数の維持
3	教育研修	褥瘡に対する診療の質向上と意識啓発

皮膚科

例えば乾癬という皮膚疾患では...



これまで有効な治療がなかったほくろの癌、悪性黒色腫に対しても...



進行期悪性黒色腫に対するがん薬物治療の発展は目覚しく、2014年以降抗PD-1抗体、BRAF/MEK阻害剤、抗CTLA-4抗体が承認されました。

1 医療の質

皮膚科診療の充実

	項目	目標
1	皮膚科診療の充実	新規治療に積極的に取り組む
2	他科との連携強化による皮膚疾患診療の充実	他科との連携により皮膚疾患の早期発見・早期治療

皮膚疾患を有する患者に対する診療体制の強化を図ります。

2 診療実績

地域連携の推進と手術件数の増加

	項目	目標	昨年度の実績
1	手術等の件数増加	730件/年	725件/年 (内、皮膚生検579件/年)
2	逆紹介件数の増加	220件/年	210件/年
3	紹介件数の増加	920件/年	908件/年

地域の基幹病院として、紹介・逆紹介の推進を図り、開業医・浜松医科大学との連携を強化します。

3 教育研修

褥瘡に対する診療の質向上と意識啓発

	項目	目標
1	褥瘡勉強会（職員向け）	1回/年
2	教育体制の強化と研修医の確保	研修医への教育の充実

職員に対する褥瘡研修による意識向上を図り、患者さまのADL向上に貢献します。

充実の設備とスキルで診療を行います



中東遠医療圏における基幹病院の皮膚科として、高いレベルでの皮膚疾患全般の診断・治療を行います。

今年度は開業医・浜松医科大学との連携をさらに強化し、地域で一体となってあらゆる皮膚疾患に対応できる体制を目指します。



決意

地域との連携を
強化しながら
あらゆる皮膚疾患に
対応します



平成30年度 診療科目目標発表

眼科 Ophthalmology

眼科



	氏名	役職
1	土屋 陽子	診療部長
2	永田 祐衣	医長
看護師		
	栗田 永巳子	安江 美恵子
視能訓練士		
	小山 香	守山 真弓
	安間 光子	鷲山 愛
	畑中 由美子 (産休中)	
メディカルエイド		
	井口 博美	松本 絢子
	安達 ふじ子	

主な診療実績 (平成29年度)

外来患者数	89.8人/日
入院患者数	6.8人/日
手術件数	
白内障	700件
緑内障	4件
斜視	8件
眼瞼下垂などの外眼部手術	31件
硝子体注射	
レーザー治療 (糖尿病網膜症など)	120件
後発白内障レーザー治療	69件
ボトックス注射 (眼瞼痙攣、斜視)	

眼科



1	医療の質	診療の効率化と質の向上
2	診療実績	紹介状患者の受け入れ強化
3	教育研修	研修医の確保と教育の充実

1 医療の質

診療の効率化と質の向上

	項目	目標
1	診療の質の向上	医師、視能訓練士のスキル向上 新しい治療法を導入し、患者さまのニーズに合うような選択肢を増やす
2	外来業務の効率化	開業医と連携を取り、適切な外来患者数を維持することで、受け入れ体制を整える 手術件数の維持する

診療の質を向上し、安心安全な治療や、多様化する患者さまのニーズにこたえるように努めます。

2 診療実績

紹介状患者の受け入れ強化

	項目	目標	昨年度の実績
1	紹介件数の維持	840件/年	836件/年
2	逆紹介件数の維持	600件/年	911件/年
3	白内障手術の維持	昨年度の件数維持	700件/年
4	緑内障手術の維持	昨年度の件数維持	5件/年

外来業務の効率化を図り、患者さまの受け入れ体制を強化します

3 教育研修

研修医の確保と教育の充実

	項目	目標
1	カンファレンス（勉強会）の開催	毎朝 Webカンファ 1回/年
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

前眼部から眼底疾患まで、幅広く診療のできる眼科医を育成するよう指導・教育します

患者さまの希望に添った医療を提供する

白内障手術は日帰り、1泊2日、2泊3日の入院と、患者さまやご家族の都合に合わせ、柔軟に対応できるようにしています。

今年は多焦点眼内レンズに対する先進医療認定施設となりました。新しい治療にも取り組み、より満足 of いく結果が得られるよう取り組んでいます。

中東遠圏内で常勤医師による眼科疾患の入院診療ができるのは当院のみとなっています。近隣病院や開業医との連携をとりながら、質の高い診療を提供できるよう、体制を強化してまいります。

決 意

中東遠地域の基幹病院として、
地域の先生方と連携を取り、
医療の質向上に努めていきたい
と思います



平成30年度 診療科目目標発表

耳鼻いんこう科 Otorhinolaryngology

耳鼻いんこう科

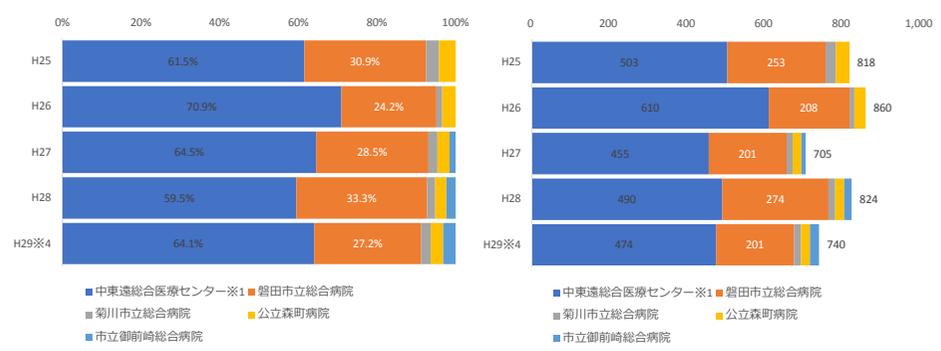


	氏名	役職
1	臼井 広明	診療部長
2	泉 智沙子	部長
3	疋田 由美子	医長
4	小黒 美樹	医長

主な診療実績	
外来患者数	47.9人/日
入院患者数	10.3人/日
手術件数	17.4件/月

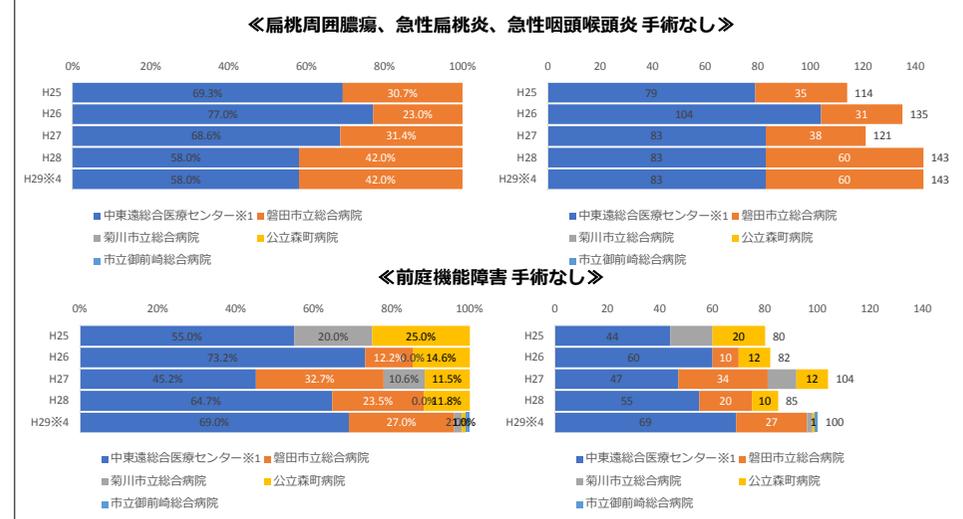
耳鼻いんこう科

中東遠医療圏における耳鼻咽喉科疾患のシェア率
(全疾患, 睡眠時無呼吸を除く)



耳鼻いんこう科

中東遠医療圏における耳鼻咽喉科疾患のシェア率 (疾患別)



耳鼻いんこう科

	手術数		手術数
耳科手術	25		
鼓室形成術	3	喉頭微細手術	17
鼓膜形成術	1	音声機能改善手術（声帯ポリープ）	11
鼓膜チューブ挿入術	10		
外耳道形成術	1	頭頸部手術	48
先天性耳瘻管摘出術	6	頭部郭清術	3
乳突削開術	3	顎下腺良性腫瘍手術	2
顔面神経減荷術	1	耳下腺良性腫瘍手術	6
		甲状腺良性腫瘍手術	6
		甲状腺悪性腫瘍手術	11
鼻科手術	101	副甲状腺腫瘍摘出術	2
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	46	顎下腺摘出術	5
鼻中隔矯正術	30	リンパ節生検	9
鼻甲介切除術	7	頭部嚢胞摘出術	2
顎・顔面骨折整復術	15	鼻副鼻腔良性腫瘍手術	2
上顎洞根治手術	3		
口腔咽喉頭手術	154	異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	1
扁桃摘出術	104	気管切開術	8
アデノイド切除術	14		
口蓋垂・軟口蓋形成手術	1		
舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術	7	手術合計	337

※全身麻酔手術件数203件 局所麻酔手術件数18件

耳鼻いんこう科

平成30年度
➤
目標

1	医療の質	副鼻腔ナビゲーション手術の強化
2	診療実績	手術及びがん患者の受け入れ強化
3	教育研修	研修医の確保

耳鼻いんこう科

1
医療の質
副鼻腔ナビゲーション手術の強化

	項目	目標	昨年度の実績
1	ナビゲーション手術を利用した安全性の確保	60件/年	48件/年

地域連携を強化し、より高度な管理を必要とする症例について、積極的に受け入れます。

耳鼻いんこう科

2
診療実績
手術及びがん患者の受け入れ強化

	項目	目標	昨年度の実績
1	手術件数の増加	240件/年	209件/年

経鼻内視鏡手術やがん患者への治療など、より高難度な症例の受け入れを強化します。
また、頭頸部がん化学療法、放射線療法患者の受け入れも強化します。

3 教育研修

専攻医の確保

	項目	目標
1	大学と連携した教育指導の強化	専門医の育成
2	教育体制の強化と研修医の確保	専攻医の確保

耳鼻科領域から頭頸部腫瘍領域まで幅広く指導を行います。

経鼻内視鏡手術がより安全・安心に



当診療科では、副鼻腔炎の治療に経鼻内視鏡手術を行っています。ナビゲーションシステム導入により、さらに安全・安心な手術が可能となりました。

また、病院全体の取り組みでもある「がん診療の強化」についても、頭頸部や甲状腺等のがん患者さまを積極的に受け入れ、地域医療のさらなる充実に貢献してまいります。

決意

内視鏡手術やがん診療の
充実により
地域医療に貢献します

平成30年度 診療科目目標発表

腫瘍放射線科 Radiation Oncology

腫瘍放射線科

がん診療を支える放射線治療



	氏名	役職
1	一戸 建志	診療部長

主な診療実績	
外来患者数	23.1人/日
照射件数	476件/月

腫瘍放射線科



1	医療の質	照射方法の適切な選択と精度の向上
2	診療実績	照射件数の増加
3	教育研修	研修医の確保

腫瘍放射線科

1 医療の質 照射方法の適切な選択と精度の向上

	項目
1	患者ごとに最適な照射方法の選択
2	放射線治療装置の精度の維持管理
3	外部講師を招いた照射PRを行う

照射専門の放射線技師と協力し、精度の向上に努めています。

2 診療実績

照射件数の増加

	項目	目標	昨年度の実績
1	照射患者数の増加（根治・姑息）	240人／年	236人／年
2	高精度照射（定位・IMRT）件数の増加	90人／年	83人／年

IMRTを含めた高精度照射件数の増加を目指します。

3 教育研修

研修医の確保

	項目
1	後継者の育成
2	教育体制の強化と研修医の確保

研修医の確保を図り、放射線治療体制の維持に努めます。

決意

確かな技術と経験により
 地域のがん患者さまに
 最適な放射線治療を
 提供します

平成30年度 診療科目目標発表

麻酔科 Anesthesiology

麻酔科



	氏名	役職
1	山本 洋子	副院長兼（統括）診療部長兼手術センター長
2	内山 智浩	診療部長
3	平出 恵理	部長
4	秋永 泰嗣	部長
5	岩田 紘樹	医長
6	古内 宏和	医長
7	山本史子	医員

主な診療実績	
外来患者数	16.7人/日
手術件数	375.3件/月
全身麻酔手術件数	158.3件/月

麻酔科



1	麻酔業務	
2	手術センターの運営	
3	ペインクリニック	

麻酔科

1 麻酔業務 日々の症例を大切に

	項目	目標
1	麻酔困難症例に対する適切な対応	術前外来の充実と毎日のカンファランスの確実な実践
2	教育体制の強化	月1回の研修会の開催
3	人員確保	新しい分野の開拓 選択ポリクリの学生、初期研修医に熱意を持って教える
4	新しい手術に対応	呼吸器外科、小児外科等への対応
5	学会発表・論文作成	科で年に論文・学会発表を1つずつ

2 手術センターの運営

チーム医療の要に

項目	目標	参考
1 手術件数の確保	手術件数 200件/年 麻酔管理件数 100件/年増やす	昨年 手術件数 4,503件/年 麻酔管理件数 2,077件/年
2 手術室枠の組み換え・効率化	稼働率の向上	-
3 手術センターの安全性の向上	3 b以上の事故「0」	看護師も術前外来、術前訪問を行っているので情報を共有する

昨年度に比べ4月、5月ですでに手術件数が97件、麻酔科管理症例が77件増えました。



3 ペインクリニック

新しい分野への開拓

項目	目標
1 難易度の高い神経ブロック・侵襲の高い治療へ挑戦	・超音波診断装置、X線透視装置、CT撮影装置を用いたブロックを行います。 ・整形外科、放射線科など他の科と共同して難易度の高い神経ブロックや侵襲度の高い治療を行います。
2 緩和医療への参加	内山医師を週1回緩和ケア外来・緩和ケアチームへ派遣
3 疼痛カンファランス	整形外科脊椎班と月1回開催



難易度の高い神経ブロックを



★整形外科、放射線科と共同して、脊髄刺激電極植込み、CTガイド下神経ブロック等、難易度の高い治療を行います。
★がんの難治性疼痛に取り組みます。

写真はCTガイド下内臓神経ブロック



決意

手術を受けるなら中東遠
安心して手術を受けられる
体制づくりに努めます

静岡県地域がん治療連携推進病院
をとるため緩和医療でも力を
発揮します



平成30年度 診療科目目標発表

歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery

歯科口腔外科



	氏名	役職
1	夫才成	診療部長
2	安藤 友二	部長
3	若山 博隆	医長
4	中村直登	研修医
5	藤尾正人	非常勤医

主な診療実績	
外来患者数	50.2人/日
入院患者数	4.7人/日
入院手術件数	40件/月

歯科口腔外科

口腔外科の掲げる3大テーマ

- ・オーラルフレイル予防
- ・顕微鏡による手術精度の向上
- ・効率化

歯科口腔外科

オーラルフレイルとは
⇒ 口腔機能の衰え



・高齢者が衰える始める最初のキッカケ

東京大学・高齢社会研究機構
飯島勝矢教授

歯科口腔外科

平成30年度 目標

1	医療の質	地域連携強化, 手術精度の向上, 効率化
2	診療実績	手術件数増加, 実績向上
3	教育研修	院外活動の充実による科全体のレベルアップ

197

歯科口腔外科

1 医療の質 地域連携強化, 手術精度/技術の向上, 効率化

項目	目標
1	オーラルフレイル予防に向けた地域連携強化 歯科用CTの導入 および“歯の保存”の診断支援
2	手術精度の向上 顕微鏡手術の適応拡大
3	待ち時間の改善と患者満足度の向上 疾患/治療説明パンフレット作成 デジタルサイネージ (テレビモニター) による治療説明の導入

地域連携の強化を図り、より多くの患者さまに質の高い診療を提供することで、オーラルフレイルの予防や口腔機能の維持に貢献します。

198

歯科口腔外科

2 診療実績 手術件数増加

項目	目標	昨年度の実績
1	歯の再植・移植 8件/年 歯根端切除 18件/年 インプラント関連 18件/年	歯の再植・移植 6件/年 歯根端切除 16件/年 インプラント関連 16件/年
2	●顎変形症, インプラント等に対象拡大	●抜歯, 歯根端切除

歯を残し「噛む力」を維持するための手術に積極的に取り組みます。

199

歯科口腔外科

3 教育研修 院外活動の充実による科全体のレベルアップ

項目	目標
1	他施設への見学 1 - 2回/年
2	学会主催のセミナー、教育研修会への参加 2 - 3回/年
3	地域連携カンファの年1回開催 1回/年

積極的な院外活動の実施により、科全体のレベルアップを目指します。

200

総合病院の口腔外科として 1

歯を残し「噛む力」を維持するため

「歯を残す手術」に積極的に取り組みます。



総合病院の口腔外科として 2



口腔機能を大きく損なう口腔癌を、地域連携により早期発見し、低侵襲治療を目指します。

総合病院の口腔外科として 3

食事やコミュニケーションに不可欠な口腔機能を健康に保ち

活力あふれる超高齢社会の実現に貢献します。



決意

地域連携により
市民皆様の口腔機能を守り
活動的なシニアの方が溢れる
街づくりに貢献します

平成30年度 診療科目目標発表

救急科

Emergency
and
Critical Care Medicine

205

救急科



氏名	役職
1 松島暁	部長（診療科長） 兼 救命救急センター長 兼 ICU・CCUセンター長

主な診療実績

救命救急センター受診者数	21,861人/年
救急車搬送件数	6,107台/年

206

救急科

平成30年度 目標

1	医療の質	救急・集中治療領域における質の向上
2	診療実績	地域に根差した救急医療の実践
3	教育研修	救急のスタッフ全体の底上げ

207

救急科

1 医療の質 救急・集中治療領域における質の向上

項目	目標
救命救急センターの円滑な運営	24時間365日体制の維持 救急科医師の増員
集中治療専門医施設の指定	集中治療専門医の取得
院内の重症患者への対応	Rapid response systemの再構築

208

2 診療実績

地域に根差した救急医療の実践

項目	目標	昨年度の実績
断らない救急	救急車応需率 95%以上	救急車応需率 96.8%

永続的な救急医療 地域住民への啓蒙

災害拠点病院 災害対策マニュアル改訂 両市との合同防災訓練
災害対策マニュアル改訂 掛川市合同防災訓練

3 教育研修

救急のスタッフ全体の底上げ

項目	目標
多職種 の スキル向上	回診時のレクチャーの実施 キャリアアップ
専攻医（後期研修医）の獲得	新専門医制度に準じた 専攻医プログラムの策定
働き方改革	新規採用者に優しい職場 定時帰宅を目指して



平成30年度 診療科目目標発表

 **企業長兼院長**
President & Director

宮地 正彦

213

企業長兼院長

平成29年度の取り組みの結果(1)

＜医師確保について＞

目標	評価	内容
常勤医師数の増員・確保	X	血液内科:3名減(診療縮小) 放射線診断科:2名減 総合内科:2名減 救急科:1名減 腎臓内科:1名減 呼吸器内科:1名減 眼科:1名減 呼吸器内科:1名減 内科専攻医2名、他3名獲得
手術対応呼吸器外科医の代務 手術対応小児外科医の代務 心臓外科医の招聘	○ ○ △	外科基幹施設獲得の準備 3年後を目指す。

214

企業長兼院長

平成29年度の取り組みの結果(2)

＜癌診療、救急医療について＞

目標	評価	内容
癌診療の充実	◎	がん診療連携推進病院の指定を推進中 (関連業務の準備完了) 癌関連手術の増加 肺癌手術施行可能 外来化学療法室稼働増加 放射線治療数の増加
救急医療の維持、向上	X ↓ ○	救急医の減少 (4名から1名) 全科医師による救急医療 10月から2名の救急医増員 専攻医の救急直稼働開始 救急車数の増加 軽症患者の減少

215

企業長兼院長

平成29年度の取り組みの結果(3)

＜教育について＞

目標	評価	内容
教育の強化 臨床研修センターの設置 大学教育と連動した教育	◎	臨床研修センターの設置 実習学生数の増加 マッチング希望者数の増加 学生見学者数の増加 全診療科、職種に教育の向上を徹底、実行
大学との連携強化	○	4大学との実習教育の連携 愛知医科大学の救急部のサポート 浜松医大の血液内科診療のサポート

216

平成29年度の取り組みの結果(4)

＜部門間、病診連携について＞

目標	評価	内容
部門間、医師間、職種間の問題の減少、問題解決法の確立	○	問題発生時は当事者同士で話し合う。
関連医療機関との良好な連携 医師会、歯科医師会、薬剤師会との連携の強化	○	関連医療機関から紹介しやすいシステム作り 院外施設からの苦情の減少
両市との連携の強化	◎	両市の市長、議会、市民団体との交流回数の増加
中東遠地区の病院との連携の強化	◎	5病院の代表者などが集まる機会の増加

平成29年度の取り組みの結果(5)

＜経営について＞

目標	評価	内容
経営の安定、赤字の減少	△	赤字幅の増大(約4,500万円)
無駄な支出の削減	○	購入機器の厳選 低価格での購入努力 消費電力削減
入院単価の向上: 61,500円 外来単価の向上: 14,000円	△ ○	61,100円とわずかに届かず。 14,200円と達成。
入院稼働率の向上: 90%	△	89.5%とわずかに届かず。

平成30年度の目標

1. 職員が楽しく働ける職場環境の整備
2. 初期研修医の確保: 12人以上
3. 血液内科医、放射線診断医の確保
4. 働き方改革: 効率よいシステムづくり
5. 医師の仕事の軽減: 医療秘書の増員(10名)、
仕事内容拡大
6. 経営の安定、赤字からの脱却
7. 医療問題事例をなくす。

決意

- ・楽しく働き、責任を持って、地域医療に貢献する。
- ・日本トップクラスの教育、臨床医療のできる病院をつくる。